

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 「みと好文カレッジ運営審議会」
- 2 開催日時 令和4年7月20日（水） 14時00分から15時30分まで
- 3 開催場所 水戸市総合教育研究所2階 研究室5・6
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 松坂秀幸，田口米蔵，中庭陽子，市原良子，助川公継，森久美子，小磯重隆，大津奈々，海老澤裕
 - (2) 執行機関 湯澤康一，島田顕範，菊池精一，橋本裕子，檜山紘大
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 令和4年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について（公開）
 - (2) 令和4年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について（公開）
 - (3) 令和4年度みと好文カレッジ事業実施計画について（公開）
 - (4) その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
 - (1) 令和4年度第1回みと好文カレッジ運営審議会
 - (2) 令和3年度みと弘道館大学市民センター事業実績一覧（別冊）
- 9 発言の内容

委員長 それでは，議事に入らせていただきます。
本日の案件につきましては，全て公開とさせていただきますが，よろしいでしょうか。
それでは，はじめに(1)令和4年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について，事務局から説明をお願いします。

執行機関 ((1)について，資料に基づき説明。)

委員長 ただいま事務局から説明がありました(1)について，御意見や御質問等がございましたらお願いします。
(発言なし。)

委員長 昨年度末の運営審議会時に，(1)の案について皆様に諮られていたと思いますので，特になければ，最後に御意見等をいただければと思います。

では、先に進ませていただきます。(2)令和4年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について、事務局から説明をお願いします。

執行機関 (2)について、資料に基づき説明。

委員長 ありがとうございます。それでは(2)について、皆様から御意見や御質問等ありましたら、お願いします。

(発言なし。)

委員長 (1)や(2)の文章の中で、アンダーラインが引いてある箇所は、昨年度末の案から文言が変わった部分ということでしょうか。

執行機関 昨年度末の案とは文言は変わっておらず、令和3年度のものと比較して文言が変わった部分ということになります。

委員長 ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(発言なし。)

委員長 それでは、他に御意見等があった場合は、後ほど御意見等をいただく時間を取りたいと思います。

続いて(3)令和4年度みと好文カレッジ事業実施計画について、事務局から説明をお願いします。

執行機関 ((3)について、資料に基づき説明。)

委員長 ありがとうございます。説明をいただきました(3)について、皆様から御意見、御質問等あればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。どのような点からでも結構です。

(発言なし。)

委員長 昨年度、ICTを活用して事業を行う際に、今のデジタルイノベーション課と調整して事業を行ったということですが、実際にICTを活用して実施してみてもいかがだったでしょうか。何かありましたらお話ししていただきたいと思

執行機関 Zoomに関しては上手く使えるようになってきてはいると思います。しかし、昨年度、ICTに関する予算を要望したのですが、予算が付かず、今年度は機材の購入ができない状況ですので、今年度も財政課にICTに関する予算の要望をしていきたいと考えています。

委員長 ありがとうございます。では、___委員、お願いします。

___委員 ICTについてですが、ZoomやGoogle Meetのような、画面越しで話をするというのではなくて、TwitterやInstagramで、高齢者が御自身の朝食の写真を1枚だけアップロードすることで、これが生存確認につながるといったような内容のテレビ番組を見たことがあり、このようなことに意欲的なおばあちゃんの特集をやっていました。このコロナ禍、人と会うことが遮断されている中、このようなICT利用は、自分が日々どうしているかをスマホで日記のように打つとなると、手も使わなければならないから、脳の活性化にもつながるし、非常にいい取組だと思っています。しかし、スマホは皆さん持っているでしょうが、どう使っているかわからない人も多いでしょうし、御自身で使いこなせるまでに至らないと、ただしんどいだけになってしまうと思います。このような状況で、テレビ電話の機能以外で、ICTに関する取組で、高齢

者が人とつながる取組について、何かあったらお聞かせ願いたいと思います。

執行機関 昨年度は、初級者向けのスマホ講座を実施しまして、電話のかけ方やメールの使い方等、簡単な内容だったと思うのですが、今年度については、中級者向けということで、一段階上の内容のスマホ講座を実施する予定で調整しています。まだ調整中ではありますが、中級者向けでT w i t t e r等は厳しいということであれば、来年度、上級者向けというのをデジタルイノベーション課と協議して検討していきたいと思います。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
(発言なし。)

委員長 「SDGsに関連した講座の開催」というところで、詳細については調整中ということですが、皆様からもしSDGsに関連した講座について、こういった題材を取り上げてもらいたいといったような要望があればお聞かせ願いたいのですが、いかがでしょうか。

___委員 みと好文カレッジ主催で開催ということを踏まえて、SDGsのいろいろある中の教育にフォーカスしてみてもいいと思うのですが、最近は発達障害についての話題が多くなっていると思います。教育について、最近は家庭内での教育の比重が大きくなってきている中で、発達障害について、正しい知識を本人だけではなくて、親に知ってもらおうということが重要と聞きます。訪問型家庭教育支援事業もありますが、一般的なことだけではなくて、発達障害にどう向き合っていくかについて考えていただければと思います。親が、自分の子どもが変ではないかと思って、心療内科を受診させるという話をよく聞きます。ですので、発達障害についてよく知ってもらって、どう付き合っていくかというところまで理解できれば、その家庭にとって、子どものためにもなってきますし、将来につながっていく部分もあると思います。また、地域社会でそういったことを知ってもらう機会を創出していただければ嬉しいです。

委員長 今の発言に関連して、何かありますでしょうか。生きづらさを感じるということについて、地域社会の方々はどのようなイメージを持っているのか、あるいは、どんな課題があるのかというようなことを取り上げてはという話もあったかと思いますが、いかがでしょうか。

___委員 お話を聞いていて、お子さんの発達障害等は親にとっては大きな問題だと思いますが、今後、そういうのを含めた多様性が求められてくると思います。事業計画を見ると、パパやママ、男性、女性、女性の歴史といったことが書かれていて、事業計画で示していただいたものを否定するつもりはないのですが、いわゆるLGBT、性の問題をひとつとってもいろいろな個性を認めあって、生きづらさを少しでも解消していくという大きな潮流が世界的にきていると思います。いろいろな方のお話を伺ったりしても、もっと多様性を認めていくことの大切さや、それに向かう流れというのは、予想以上に日本でも進んできていると感じましたので、この先、発達障害や性差の問題も含めて、多様性みたいなことを念頭においた取組が求められてくるのかと思いました。

SDGsについては、私どもの会社でも取り組んでおり、特に若い高校生で意識が高い人が多いと感じます。一方で、SDGsという言葉自体でお客さんが一

歩引くような側面もあって、ただ、ウミガメがプラスチックを飲むような問題を取り上げると興味を示したりもして、どのように関心を持ってもらうかが難しいと感じています。ウミガメの問題のような話を振ると関心を持ってもらえるが、プラスチックには、我々は大きな恩恵も受けてきています。プラスチックにはメリットもあるし、価格といった経済原理もあります。ぜひSDGsの講座に期待したいと思うのですが、一方的に講師が受講者に教えるというのではなくて、物事のプラスの面とマイナスの面をそれぞれ提示して、みんなで考えていくといったことが大事だと思います。ウミガメの映像を流すとプラスチックは悪といった状況になるので、極端に片方に振れるようなことをするのはよくない。いろいろな材料を提供して、考えてもらうことが必要と思っています。地球温暖化や原発の問題についても、原発には基本的に反対だけど、今は電力が少なく、この状況で節電は困るし、化石燃料の問題もあるから賛成だというように、世の中もだいたいぶぶれていると思います。一筋縄ではいかない問題なので、多面的にいろいろな材料を示して、それぞれに考えてもらうことが大事なのかと思いました。

委員長

ありがとうございます。それでは副委員長、お願いします。

副委員長

最近、水戸ユネスコ協会でSDGsの研修会を開催したのですが、ファッションについて取り上げました。私たちが着ているものがどのようにして作られ、どのようにして値段がついて、私たちが購入して、そして、購入されなくて売れ残ったものがどのように廃棄されるのかといったことを調査した会員がいました。その方の報告によって、私たちはいかに大量消費・大量廃棄の時代に生きていて、いかに地球に負荷をかけているかということであらためて知ったのですが、そのときに思ったことが、やはり知ることが大事なのだなと、第一歩なのだなということです。先程もお話があったように、気が付かないあたりまえのように暮らしてしまっている裏にあるものを知ることで、私たちひとりひとりの意識が変われば消費行動も変わりますし、いい方向に向かうのではないかということで行った研修会でしたが、ファッションという切り口は身近なもので、大変好評でした。御紹介までにお話しさせていただきました。

委員長

ありがとうございます。今お話があったような多様性、ひとりひとり違うという前提を認めるということについて、私からもお話しさせていただきたいのですが、いじめが起こる原因は多様性を認識する能力の欠如だと思います。ひとりひとは違うのだということ認識し、多様性、あるいは先程、LGBTの話や発達障害についての話もありましたけれど、ひとりひとりの存在を認めることを大事にするというような視点で、心に残る日常的問題を取り上げるのはいいことだと思います。先程、環境の話も出ましたが、水戸市の環境で今問題になっていることを、市民レベルで考えるとといったことも必要でしょうし、ファッションについてもおもしろいと思いました。先日、着物を売ろうとして、物としては非常に良い物なのですが、リサイクル業者に出したら200円~300円くらいにしかありませんでした。先程の廃棄の話ではないのですが、良いものがどんどん失われていってしまうと思い、どうしてもっと高い値でリサイクルできないのかと聞いたら、あなたはこれを欲しいと思いますかと言われました。欲しくないですよということになると、値段がものすごく下がるそうです。このようなこともあ

り、ファッションもおもしろいと思いました。

ここでSDGsに関する意見を膨らませて、事務局の方に預けたいと思いますので、他にアイデア等あれば、御意見をいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。どういったことでも結構です。

____委員 意見としてなのですが、コロナ禍で、働く会社が変わることもあって、新しい仕事の力をつけるための職業能力について勉強したいという方も結構いらっしゃると思います。生涯学習と職業能力開発は異なりますが、仕事につながるような勉強がしたいと生涯を通して思っている方がいると思います。若い方もそうですが、定年後の方も、社会につながるためにはボランティアだけではなく、ビジネスにつながる何かをと思っている方がいると思うので、みと好文カレッジも職業訓練を支援するようなことができたらと思います。職業訓練そのものをやるのではなく、市民センターの場所を開放して貸すというだけでも、支援につながると思います。先日、水戸市長とお話をさせていただいたのですが、例えば、職業訓練のセミナーを開催したいと思っている事業者が、国からの補助を受けるためには、過去3年間にセミナーを開催したことがなければならぬといったような条件があり、完全に新規参入を拒んでいるとしか思えない条件になっています。ですので、水戸市で、事業者が最初の1回のセミナーを開くようなことを支援すればいいのではと思うのです。そうすれば条件を達成し、好循環が生まれるので、その辺を支援できればいいと思っています。

委員長 職業訓練の分野の話でした。

後はいかがでしょう。

____委員 水戸市が抱えている問題として、担当課はみと好文カレッジではないと思いますが、空き家の問題があると思ひまして、これは全国的な問題でもあると思うのですが、資産運用等、お金に関することを正しく知ってもらうことが必要なのではないかと思うのです。終活の中でも、家や土地をどうするといった問題がありますし、地方だと畑や田んぼをどうするといったことも課題になってきていると思いますので、事業承継について知っていただくことも価値があると思います。こういったことを、地域の方たちに知って学んでいただくことで、損をすることはないと思いますので、市民センター等が中心となってそういった情報発信をしていただけると、空き家問題の対策にもなってくるのではないかと思います。幅広い意味で、資産といった、お金に関する講座について御検討いただければと思います。

委員長 ありがとうございます。地域性があると思いますので、まちなかにある市民センター、自然豊かなところにある市民センター、それぞれ立地している場所によって、抱えている課題がいろいろあると思います。空き家についても、多い地域、少ない地域、いろいろあると思います。

後はいかがでしょう。

____委員 知ることが大事ということをお聞きしまして、本当にその通りだと思ひました。私はこども園に勤務しているのですが、発達障害を抱えている子どもや、他のことでも、悩んでいるお子さんや保護者の方が増えてきています。こども園で増えているということは、その後の小学校でも増えているということであって、

当事者は悩むから一生懸命になって、本やインターネットでそういう情報を調べたり、講座に参加したりすると思うのですが、一般の人はなかなか調べたり、講座に参加したりしないと思うのです。私も関連する仕事をしているから、学ぼうとしているので、そうではなく、一般の方が知るきっかけが何かあればいいかと思うのです。どうすれば一般の方が来たくくなるような講座になるのか、私もわからなくて難しいとは思いますが、知ることは本当に大事なのだということをお話しさせていただきました。

委員長

ありがとうございます。今年度は、初めて、訪問型家庭教育支援事業で、モデルケースとして、堀原小学校の1年生がいる全世帯を対象に訪問を行うということですが、このモデルケースから何が課題なのか、来年度はどのようにしたらいいのかを見つけるところに期待したいと思います。今までは相談したいという家庭だけを訪問していたと思いますが、全世帯を訪問することで見えてくることがあると思いますので、ここから今後につながる施策が出てくればと思います。

後はいかがでしょうか。

___委員

先程の発達障害の話ですが、確かに小学校でも増えてきておりまして、支援学級の児童の人数が右肩上がりが増えていきます。学校では、教員数が少ないのに、支援を要する方がどんどん増えている状況です。親が悩んでいて、病院に行けばいいのですが、今は病院の予約が取れない状態で、数か月先、半年先になってしまうこともあります。親は悩みながら子どもに対応していて、学校側も悩みながら子どもに対応していて、この状況はおそらくこども園でも同じだと思います。この状況が起きている学校は、ひとつの学校だけではなく、全国的にとっても増えています。多様性を受け入れるということが、言葉ではわかっているが、よく理解できないとか、対応の仕方が上手くできなくて、こちらは大変な思いをしてしまうというケースも多くみられます。教員は、研修で正しい接し方を勉強できますので、担当する教員は上手になるのです。ですが、担当していない教員は情報不足に陥るのです。ということは、学校の外の人たちはもっと情報が入らないので、発達障害の方が目の前にいるときに、どのように対応したらいいのかわからなく、戸惑う方が多いのが現実です。しかし、一般市民に講座をやりますよと言っても、周知されなかったり、興味がなかったりという問題もあって、なかなか支援を要するお子さんの周囲の環境が整っていかないということも、学校現場でとても感じています。

委員長

ありがとうございます。そういった点も含めて、検討していただければと思います。

後はいかがでしょうか。

___委員

皆さんの御意見をお聞きしていると、非常にハイレベルな内容だと思います。ある程度、現代のニーズをとらえた講座は必要かと思いますが、もっと参加しやすいような講座、ハイレベルな内容をやっていくのもいいですが、題名こそは難しくても、皆さんが聞いてみたい内容というような切り口で講座を開いていただくことも必要だと思います。

それと、後で説明があるのかもしれませんが、配布された資料に市民センターの定期講座の状況が書かれています。これを見ると、日中の講座が多いというこ

とですよ。講座を実施する時間帯を考えないといけないと思うのですが、時間帯を指定してしまうと、担当する側が大変になってしまうので、この辺が難しいと思いました。

委員長 ありがとうございます。

それでは、時間の関係もありますので、今お話にあった、昨年度初めて実施した、市民センター定期講座の事業評価について、事務局から説明をいただいた上で、全体を通してまた御意見をいただきたいと思います。

では、(4)その他として、令和3年度市民センター定期講座事業評価について、事務局から御説明をお願いいたします。

執行機関 (令和3年度市民センター定期講座事業評価について、資料に基づき説明。)

委員長 ありがとうございました。昨年度の定期講座の事業評価から、御説明があったような内容が考察されてきたと思うのですが、そういったことも含めて、時間の関係もありますが、最後に皆さんから御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

____**委員** 平日の昼間に開催している講座が多いという結果が出ているようですが、講座の内容ややり方より重要であると思う点は、セキュリティだと思います。市民センターの場所を使うときに、セミナーを開く講師が鍵の開け閉めをして、誰も鍵を管理する担当者はいないというシステムを作れば、24時間365日とは言わないまでも、適切なタイミングでセミナーを開催できると思います。

____**委員** 水戸市の市民センターでは、地域の人で鍵を預かっている責任者がいます。その人から鍵を借りて、市民センターの開け閉めをするということは、どこの市民センターでもやっていると思います。

執行機関 今、____委員からお話がありましたように、ほとんどの市民センターでは、市民センターの近くの人が鍵を預かっているのですが、新しい市民センター等では、市民センターの外にキーボックスを設置しておりまして、キーボックスから鍵を取り出して、市民センターの開け閉めができるようなシステムになっております。このシステムが、今後、全市民センターに広がっていくのではないかと感じております。

____**委員** それでは、例えば朝7時から夜9時までという全部の時間帯で、照明やエアコンの利用も含めて、講座を開くことができるということですか。

執行機関 自動警備がかかっているのは事務所の中だけです。ホールや会議室は、照明やエアコンの利用も含めて自由に使えるようになっています。

____**委員** それでは、昼間しか開講できないという先入観は持たずに、講座を計画すればいいということですか。

執行機関 市民センターの運営審議会等に諮って、その講座が認められれば開催することができます。

委員長 後はいかがでしょう。どういうことでも結構です。

____**委員** 感想なのですが、お話を伺っていて、コロナ禍でオンラインの講座等がとても普及したと思うのですが、対面には対面のよさがあると思うのですが、コロナが収束した後でもオンラインを活用していくといいと思います。例えば、夜間の講座を、全部ではなくても、一部オンラインにすると、参加者も自宅から参加でき

るので、外出する手間も省けます。新規の受講者を増やすのに、いきなりオンラインを活用するのに抵抗があるかもしれませんが、むしろオンラインを活用する方が入りやすいのではないかと思います。

また、被爆者のお話を聴く講座もあるということで、戦争を知っている方が少なくなっている中、大事な講座だと思います。講師は高齢の方でしょうか、こちらにいらっしゃるのですか。

執行機関 市民センターで実施するので、市民センターに来ます。

委員 それはそれで、直接お話を聴くことで受講者が感じる場所も大きいと思うのですが、一方で、広島や長崎からリモートでお話を聴くようなことができれば、このような講座を開催するハードルが低くなるのではないかと思います。この先も、オンラインは上手く活用していくと、いろいろな広がりを見せるのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。後はどうでしょうか。

副委員長 市民センターの講座について、幅広い年代の方や、若い世代の方が参加できるように、オンラインや夜間を検討してはという意見が出まして、これは重要な視点だと思います。その一方で、私が大事にしなければいけないと思うのは、定期講座を受講している年齢層の7割以上となっている70代以上の方たちです。私自身も定年退職しまして、家にいる時間が多いのですが、高齢になればなるほど、人とのつながりは自分が歩いて行ける場所にあるので、市民センターで何か一緒に学びながら集えるような機会は、今後も大事にしていきたいと思えます。幅広い年齢層が市民センターを利用しなければいけないという考えばかりではなくて、70代以上の方が、おそらく一人暮らしの方も多くなっていると思いますが、学びながら集える役割を、市民センターのひとつの役割として、これからも大切にしていだければと思います。

委員長 ありがとうございます。後はいかがでしょうか。そろそろ時間になってきましたが、皆様から、言い足りない御意見等ありましたらお願いします。

(発言なし。)

委員長 それでは、いろいろな御意見を出していただいて、本当にありがとうございました。これらの意見をもとに、一つでも二つでも、内容を膨らませて、今後の事業等に活かしていだければと思います。

以上で、全ての議題を終了させていただきます。委員の皆様には、御協力をいただきまして、ありがとうございました。